

## ■知的障害のある子どもへの実践事例

# みんなでデジタル読書をしよう —「わいわい文庫2016」の楽しみ方

奈良県香芝市立真美ヶ丘東小学校  
西浦 富美子

### はじめに

私は、特別支援学級担任と学校図書館司書教諭を兼任しています。「わいわい文庫」は優れた学習材であり、デジタル読書材だと考えています。障害者差別解消法元年に「わいわい文庫2016」を（以下「2016」と省略）頂戴して、その思いを新たにしました。知的障害のある子どもたちが「2016」を読むには、具体的にどのような支援が必要かを研究しました。学習活動と読書活動における実践をそれぞれ3例ずつ報告します。

### 学習活動における「2016」 活用例

本校の特別支援学級に在籍する子どもたちの一部は、実態に応じた個別学習の他に、体育・製作・栽培・言語活動等の集団学習に参加して社会的自立を目指しています。週4時間小さなコミュニティの中でも、原学級と同様に、互いに刺激し合って能力を引き出し合い、助け合いながら他者と協働する方法を学んでいます。「わいわい文庫」を利用するのは隔週1時間ですが、2年

間続いています。

本年度のメンバーは、知的障害や情緒障害のある子どもたち8名（1年生・1名、2年生・4名、3年生・1名、6年生・2名）です。

### （1）『こんたのおつかい』9分

#### ～内容理解

物語の内容を理解できない原因の1つに、冒頭に示される設定を把握できないことが考えられます。読み聞かせの前に「話の枕」という話題提示を行うように、「2016」視聴の前にも物語の設定を共通理解しておくことにしました。今回は、主人公のキャラクター、おつかいの目的、そして家から店までの道筋が二つあることを押さえました。

興味づけに、きつねの手遊び歌<sup>（\*注1）</sup>を歌ってから視聴しました。

すると、物語の途中でこんたが母の指示とは異なる道を選ぶことを予測できました。そして、「お揚げください」を「お化けください」と言い間違ったりで、どっと笑いが起こりました。視聴後に3分間ワークシート（文字を

書くことが苦手な子どもにはなぞり書きを用意)で理解度を試しました。Aさんは、森の木が擬人化される場面で怖がっていましたが、視聴後には答えをすらすらなぞり余白に鬼の絵を描いて喜んでいました。B君は、本当にお化けを売ってくれたらどうしようと思像を膨らませていました。その後おつかいごっこも楽しんで満足感のある学習となりました。

## (2)『動物レストラン』7分

### ～知識習得

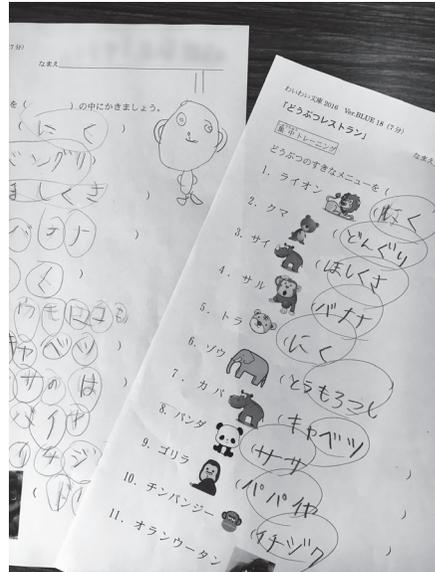
動物園にいる動物の名前と提供される餌の名前のマッチングを図りました。

加えて、肉食と草食の見当をつける問題も出しました。11種類もの動物が登場するので、絵カードで名前を確認し、「動物園へ行こう」(\*注2)という歌を歌ってから視聴しました。餌をどれだけ聞き取れたか、絵カードや食物モデルと対応させながら確認しました。

その後2組に分かれて動物カードゲームをしてから、ワークシートでまとめのテストをしました。

ヒントなしで全問正解できたのは1人。なぞり書き2人。残りの5人は最初の1～2文字のヒントに続けて解答し、8割以上正答できました。

またサイやゴリラのように体の大きな動物たちが草食であるという知識を得ました。



ワークシート

## (3)『どんぐりむらの ぼうし屋さん』15分 ～描画のヒント

絵本作家の素晴らしい絵は、子どもたちを惹きつけます。以前ワークシートに手描きで模写したキャラクターを添えたところ、子どもたちも真似したことがありました。そのことを思い出して、このタイトルを選びました。ねらいは、視聴後になかやみわさんの愛らしいどんぐりを手本にして、11月のカレンダーを制作することでした。



カレンダー

ねらいは成功して、目玉の位置を変えると表情が変わることや帽子に飾りをつけること等を学習しました。絵を描く動機づけとしては効果的でしたが、子どもによっては15分間の話に集中できませんでした。

## 読書活動での「2016」活用例

### (1)『コロッケです。』8分

#### ～読み聞かせ

6年生のCさんとD君は図書委員なので、低学年の教室へ読み聞かせに行く機会がありました。2人とも持ち前の元気な声が自慢ですが、絵本の持ち方や読み方のテクニックを簡単には身に付けられません。そこで、1学期に視聴した「2016」の中で人気の高かった『コロッケです。』を読み聞かせることを薦めました。

2年生の教室で「2016」の視聴が可能かどうかについては、伊藤忠記念財団に連絡して確認を取りました。

2人はCDをよく視聴してから、コロッケ役とナレーター役を分担し、普通より1段階速いスピードで読む練習を繰り返しました。教室のテレビでは画像を130%に拡大しましたが、じゃがいもの山に紛れているコロッケが見えにくいので、その場面は一時停止し180%に拡大することにしました。2年生2クラスに読み聞かせたところ、みんなとても喜んでくれました。6年生

の2人にとっては大きな自信となりました。

### (2)『はじめてのおつかい』13分

#### ～自立

2年生Eさんの例です。入学当初から平仮名はすらすら読めるけれど内容は理解できないタイプの子どもでした。

絵本も「わいわい文庫」も教師が寄り添い、お喋りや質問をしながら読み進むことを繰り返し、1冊読むごとに一言感想を書く読書貯金を続けました。60冊を越える頃に変化が表れました。2年生の2学期、昨日の出来事を話すようになり、顔が描けるようになり、同年齢の子とも会話ができるようになりました。朝読書の時間にタブレットとヘッドホンを渡すと、既習のタイトルを選んで読んでいました。数回目に『はじめてのおつかい』を薦めたところ、初めて一人で読み通しました。

読後におつかいの目的や道中の困難について教えてくれました。

### (3)『わらしべ長者』15分～劇の原作

12月には、市民ホールで、市の特別支援学級合同クリスマス会があります。そこで寸劇を披露するのが恒例の行事になっています。リハーサルとして学校の舞台にも立てるので、子どもたちの気分は高揚します。今回の参加者は、原学級と支援教室の両方で学習する8

名の他に、原学級で学習する8名が加わって16名になりました。演目には「2016」Ver.BLUEの『わらしべ長者』を選んで脚色しました。最初に原作を各担任の先生と一緒に読んでイメージを掴んでもらうことにしました。その際には、地元奈良県の長谷寺にまつわる民話であること、製作には県立図書情報館や高円高校の生徒が協力していることを伝えてもらいました。劇は大成功をおさめ、子どもたちに連帯感が生まれました。また、校内・市内の子どもたちに『わらしべ長者』を紹介する好機となりました。



## おわりに

「2016」を使ったデジタル読書の成果と注意点をまとめます。

○特別支援学級の子どもたちは安全上の理由で経験が乏しくことがあります。でも、お話の中で、お遣いや磯遊び等の経験を補う創造力を得ました。

○劇や読み聞かせのような、お話のア

ウトプットが有効でした。聴き手を意識することで滑舌と表現力を磨くことができました。

○『動物レストラン』に関連付けて若い先生が英語授業をすると、子どもたちは大変意欲を見せました。

○教員は、読書中の子どもの表情やつぶやきを静かに観察できるので、子どもが主人公に共感する様子を見守ることができました。

良書が収録されているお蔭で、学習に幅を持たせることができました。

▲複数で視聴するときは、10分以内の作品が適当です。また、絵探しの内容は不向きです。それぞれの聴覚的・視覚的認知力に配慮が必要です。

▲個人的に視聴する場合、紙媒体の検索資料や読書案内も便利なので、「わいわい文庫」のポスターをコピーしておくことをおすすめします。

絵本が「言葉と絵の宝庫」<sup>(\*注3)</sup> ならば、「わいわい文庫」は「言葉と絵と語りの宝庫」と言えるのかもしれない。

特にVer.BLUE『日本昔話の旅シリーズ』を視聴すると大変心地よい気分

なります。

製作者の皆様に敬意を表しつつ、今後も子どもたちと共に「わいわい文庫」を楽しみ、緩やかに利用を継続・促進していきたいと願っています。

\*注1 「キツネがね化けたとさ」

\*注2 NHK「みんなのうた」 作詞：海野洋司、作曲：T・バックストーン

\*注3 『クシュラの奇跡—140冊の絵本との日々』ドロシー・バトラー著 百々佑利子訳、のら書店 1984年、p200

